



ともに一步前へ

上越市立戸野目小学校学校だより 令和7年11月20日 No.277

戸野目小学校



絵本は抑揚をつけないで読む方がよい？

校長 加納 雅義

あるとき「絵本は抑揚をつけないで読む方がよい」という言葉が目に留まりました。私は、これまでの経験から、絵本の読み聞かせにおいては、登場人物の気持ちが伝わるようにと抑揚を付けて読んでいたのでとても驚きました。

そこで、このことについてインターネットを使って、調べたところいくつかの論文に当たることができました。論文の中には、淡々と読まないと読み手のイメージが先行し、子どもたち自身の自由な読みが妨げられるのではないかという疑問から脳反応を手がかりに考察した論文もありました。

いくつかの論文から見えてきたことは、絵本の読み聞かせにおける抑揚の有無は内容理解や創造力に影響がないようである、ストーリー性のない絵本では抑揚を付けた方が子どもの反応がよいということでした。

はっきりしたことが分からないので、絵本専門士はどのように考えるのか、鷗原晶子さんの意見に耳を傾けてみました。「淡々と読むか感情をこめて読むか」ということについて、「演技は必要ない」「“抑揚”や“テンポ”的意識も必要ない」とのことでした。また、「お子さんが途中で口をはさんてきて、なかなか先に進まない時は、答えていいかどうかについて」は、「できるだけ答える。絵本を通じたコミュニケーションに価値がある」とのことでした。さらに、「読んでいる途中で親が質問したり読んだ後に感想を聞いたりしてもいいか」については、「感想は聞かず、読みっぱなししがよい」「読み終えたときの喜びや満足感を大事にする」とのことでした。

これらのことから、当たり前に思っていた「絵本での抑揚」は、考慮する必要はないのではないかと考えることに至りました。これまでの私の当たり前を覆すことになりました。

鷗原さんは、「家庭で絵本を読む効果は、親子のスキンシップやコミュニケーションを深めること。どんなふうに読んでもらっても、その時間は子どもにとって宝物です。」と言っています。また、研究者の中にも絵本の読み聞かせを、相互の感情の響き合いの場と捉えている方もいます。

これからは、家にいる時間が多くの季節になります。読書を家庭での過ごし方の一つに位置付け、ご家族で気持ちを通い合わす時間としてみてはいかがでしょうか。その際は、うまく読もうとしなくてもいいので、お気持ちを楽に。私も、今後は気持ちを楽に、子どもたちと心を通わせるために絵本を活用していきたいと思います。



宝物のような時間…
幸せを感じます

学習発表会



10月25日（土）に学習発表会を行いました。大勢の保護者の皆様からご覧いただくことができたことで、子どもたちもおうちの人へ聞いてもらおうと、真剣に発表に取り組むことができました。

どの学年の発表も、これまでの生活科や総合的な学習の時間での学びを基にした内容でした。4月から、子どもたちが担任や地域の人たちと何を学んできたか、お分かりいただけたものと思います。まだ学びの途中ですが、これからは、学びから得たことを基にこれまでの学習を振り返る活動に進んでいきます。

また、絵画についても、それぞれの学年ごとのテーマに沿った作品が展示されました。ご覧いただけたでしょうか。子どもらしい、素敵な作品に仕上がりました。

ご観覧いただき、大変ありがとうございました。



1年生



2年生



3年生



4年生



5年生



6年生

12月の主な行事予定



1	月	岩島学校訪問カウンセラー来校	12	金	町内子ども会
5	金	3年 PTC、5年 PTC（午前） 学習参観・学年懇談会（午後）	16	火	期末清掃（19日まで）
8	月	岩島学校訪問カウンセラー来校 読書週間（～12日）	23	火	全校5限後下校
9	火	委員会	24	水	2学期終業式（給食後下校）
11	木	健康アップデー			27日（土）～1月4日（日） 学校無人化 1月8日（木） 3学期始業式